園長と語ろう

―格好良い顔―

園長　家田　美里

むらさき幼稚園では年に4回仏教行事があります。御忌会・花まつり・成道会・涅槃会といいます。仏教園ならではの行事で、年長児が「代表さん」になり献香・献灯・献華を行います。子ども達は年長になると自分達で考え、クラス全員で考え、色んな物事を決めるのですがこの代表決めもそのひとつです。私達は1年を通じて1人1回代表ができればいいと考えていて、保護者の方にはお子さんの成長を直接感じていただける場になっています。「ぼくはどきどきするからさいご（涅槃会）にする」「わたしはおおきいおてら（御忌会）でする」と自分で決めます。年長に進級して最初に話し合うのが御忌会の代表です。他の行事は園内で行うのですが、御忌会だけは金戒光明寺（本山）で行います。本山も年に一度の大きい行事で遠方よりお坊さんがたくさん来られます。当然私達の事はあまり構ってもらえず、毎年振り回されることも・・・。何度も参加している私でさえ今年はどうなるのかと少しドキドキします。代表児になると大きいお寺で衣装に着替え、大勢の知らない人の前で献香・献灯・献華を行います。その緊張は大人が思うよりも遥かに大きいものでしょう。それが故に御忌会の練習は、大きいお寺での緊張に押し潰されないように緊張感を持って行っています。今年の年長児はクラスの人数が少ない為、1回でクラスの半分以上が代表になりました。まだ自分の帰る用意をちゃんと出来ていない人も居るのに勤まるのか？と心配になり小田先生に確認しました。すると子ども達にしっかり説明をしていてくれて、「ぼくはやる」「わたしもできる」「ぼくはどきどきするからしない」「わたしはこんどにする」と全員が自分で考えて決めたそうです。私も代表児には再度確認をしましたが、全員「できる」としっかり答えていました。子ども達の真剣さが私にも伝わり8人で代表をする事になりました。初めての練習の日、練習が始まると代表児の顔つきが変わり、とても緊張した良い表情になりました。練習は昼食後に行っていましたが、何度か練習を重ねていくといつものペースで食べていたら間に合わない人がでてきました。そこで間に合うように食べるにはどうすればいいのかを自分なりに考えて、食べきれなかった分は練習後に食べる、と本人なりに決めました。又、代表には3つの約束があります。①おじゅずを持ってくる事②名札をつけている事③上靴を履いている事です。このどれが欠けていても私に厳しく言われます。「だっておかあさんが・・・」と言えば「お母さんは関係ありません。代表さんは自分で準備をしてください」と言われドキドキします。このドキドキと本番のドキドキを乗り越える事で1つ逞しくなります。長い人生の中で緊張する場面に出会う事はたくさんあります。大きくなればなるほど失敗ができなくなっていきます。だから今、失敗できる時にたくさん緊張をしてほしいのです。失敗してもいいからたくさん挑戦してほしいのです。幼児期だからこそやり直しができ、できた時には大きな自信に繋がります。むらさきっ子はこの経験があるからこそ、大人になっても緊張を乗り越える事ができます。今回も代表さんは私のプレッシャーに負けず無事に代表を勤めました。代表ではなかった年長児は、お寺の広い本堂で大きな声で「ほうねんさまありがとう」を歌ってくれましたね。次の花まつりでほぼ全員が代表を経験し緊張した良い顔を見せてくれました。練習のたびにあの格好良い表情を見られる私は幸せで、保護者の方にも見てほしいと思うのですが、残念な事にお母さんに会うと甘えん坊の顔に戻ってしまうのです。本番の1回くらいは見てもらえましたか？これから見ていただける機会はたくさんあるので楽しみにしていてください。丁度この7月号を読んで頂いている頃にはお泊まり保育の話し合いをドキドキしながらしているはず。どんなお泊まり保育になるのか楽しみにしています。また格好良い顔をしているのでしょうね。そして年中・年少児の保護者の方も安心してください。必ず格好良い顔を見せてくれます。楽しみに待っていてください。